

様式第1号

会 議 録

会議の名称	令和7年度第1回所沢市高齢者福祉計画推進会議
開催日時	令和7年5月15日（木）午後3時30分から午後5時00分
開催場所	所沢市役所本庁舎8階大会議室
出席者の氏名	今城委員、林 委員、川口委員、岡田委員、川野委員、 米川委員、吉田委員、山田委員、齋藤委員、渡邊委員、 神藤委員、由井委員、山下委員、板倉委員、辻 委員、 藤澤委員、田中委員
欠席者の氏名	大島委員、栗屋委員
議 題	(1) 地域包括支援センターの運営状況について (2) 所沢市高齢者福祉・介護実態調査について (3) 第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の令和6年度進捗 評価報告について (4) 地域密着型サービス事業者の指定等について (5) 報告事項等
会議資料	(1) 会議次第 (2) 資料1 地域包括支援センターの運営状況について (3) 資料2 所沢市高齢者福祉・介護実態調査について (4) 資料3 第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の令和6 年度進捗評価報告について (5) 資料4 地域密着型サービス事業者の指定等について (6) 資料5 報告事項等（所沢市包括的支援事業の実施に係る基 準を定める条例の一部改正について）
担当部課名	福祉部 越智部長、大舘次長 高齢者支援課 溝井課長、橋本主幹、日下部副主幹、 中村主査、森田主査、小原主査、工藤主査 介護保険課 田中介護保険担当参事、肥沼副主幹、 今泉主査、山田主査、荒幡主査、東主査 健康推進部 保健医療課 中山課長 国民健康保険課 水口主査 健康づくり支援課 近藤主幹

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議は全て公開することを確認 ・ 議事録の作成方法について、要約方式、委員名無記名とし、委員長の承認により確定することを確認 ・ 傍聴人無し
	<p><u>議題（１）地域包括支援センターの運営状況について</u></p>
事務局	<p>資料 1 に基づき、地域包括支援センターの運営状況について説明を行う。</p>
委員	<p>令和 6 年度 介護予防支援の実施状況について、三ヶ島第 2 地区の自前件数が 8 8 8 件で全体の件数の約 3 0 %、委託件数が 2, 0 4 5 件で全体の約 7 0 %となっているが、こうした割合になっている理由を教えてほしい。</p>
事務局	<p>三ヶ島第 2 地区の委託率が高い理由は、受託している当法人の居宅介護支援事業所である「指定居宅介護支援事業所 桑の実総合相談室」や「指定居宅介護支援事業所桑の実中央相談室」への委託のしやすさや、川越市や入間市の居宅介護支援事業所にも委託しているといった実情がある。</p> <p>また、現在の当地域包括支援センター長が入間での職務経験もあることから、人脈が広い点や他機関では対応できない問題案件を当地域包括支援センターで速やかに対応できるよう、極力、介護予防支援のケアプランを持たないよう努力している点も理由として挙げられる。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<u>議題（２）所沢市高齢者福祉・介護実態調査について、</u>
事務局	資料２に基づき、所沢市高齢者福祉・介護実態調査について説明を行う。
委員	本調査の回収率は、大体どのくらいか。
事務局	回収率については、前回調査の全体の回収率は、73.8%である。各調査対象の回収率については、①要介護1から5以外の高齢者は74.7%、②要介護1から5の高齢者は61.8%、③ケアマネジャーは88.0%である。本調査については比較的高い回収率となっていると考えている。今回の調査についても回収率を維持できるようにアンケート項目等を検討していく。
委員	アンケートに要する時間はどのくらいか。
事務局	1問に30秒と仮定すると、要介護1から5以外の高齢者では設問数が77問のため30分程度かかる計算になる。回答しやすいようにチェック方式にするなど、今回の調査においても、回答の負担ができるだけ少なくなるよう対応していきたい。
委員	アンケートは郵送のみか。
事務局	他市でweb回答を実施しているところもあり検討したが、回答率を見てみるとweb回答を利用している方が少なかったことから、費用対効果等を踏まえ、web回答の導入は予定していない。アンケートの実施に当たっては、事業者へ業務を委託しているため、委託契約の中でweb回答について考慮することがあるかもしれないが、現時点では、郵送のみでの実施を予定している。
委員	前回あるいは前々回の調査票の変更点を教えてほしい。
事務局	前回の変更点としては、例えば、ご高齢になると医療と介護の

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>両方を必要とする方が増えてくることから、在宅療養に関する認知度を把握するため、「在宅療養のことを知っていますか。」という質問を新規に追加した。</p> <p>他にも、1人暮らしの高齢者の増加も見込まれる中、老後の備えに関してどのように考えていらっしゃるかを把握するため、「あなた自身が寝たきりや認知症など他者への金銭管理や身元保証をしてもらう状況となった場合、それらについて誰に任せたいか。」という質問を新規に追加した。</p> <p>また、設問の内容を修正したものとして、認知症施策についての認知度を把握する設問について、回答の負担を考慮して選択肢の数を削減する一方で、「トコロんおかえり QR を知っていますか。」という選択肢を追加するなど、新規事業を反映したものなどもある。</p> <p>今回については、例えば、認知症施策について、国において新しい計画が策定され、当市においてもその計画に対応していく必要があることから、認知症施策に関する質問を修正又は追加することを検討している。</p>
	<p align="center">議題（3）第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の令和6年度進捗評価報告について</p>
事務局	<p>資料3に基づき、第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の令和6年度進捗評価報告について説明を行う。</p>
委員	<p>評価票5ページ目、在宅で安心して暮らし続けるための取組について、評価票内の項目でこの取組のみ、評価が「×」になっている。</p> <p>しかし、累計配布本数は、前年度比で約103%、目標値と比較しても約99%の結果となっていることから、「△」でも良いのではないか。</p>
事務局	<p>目標未達であることなどから「×」としたが、御指摘のとおり、</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員長	<p>限りなく目標値に近い実績だと考えており、「△」の方がより適切な評価ではないかという委員の皆様からの御意見があれば、「△」に修正したいと考えるがどうか。</p> <p>本項目について、評価を「△」としてもよいか。</p> <p>（異議なし）</p>
事務局	<p>それでは、本項目について「△」に修正させていただく。</p>
委員	<p>6ページの医師による人生会議セミナー参加者数が80人となっているが、もともと目標は何人だったのか。</p>
事務局	<p>目標人数は設定していないが、1回当たり約20名を想定して6回開催した。しかし、人数が集まらなかった回もあり、平均して1回当たり約13名の参加となった。できるだけ広い地域で開催したほうが良いと考え、市役所本庁舎以外にまちづくりセンターなども活用して会場を分けて実施したが、開催回によって申込状況に差があったことから、令和7年度では、公共交通機関によるアクセスのしやすさなども踏まえ、会場を再検討するなどして、より多くの方に参加いただけるよう努めたい。</p>
委員	<p>もう少し大きい会場でアクセスの良いところで実施するということか。</p>
事務局	<p>講師である医師の方と近い距離で話すことができるということが本セミナーの重要な要素となっているため、今年度についても、1回当たりの人数は20～30名程度を想定している。また、会場については、市役所本庁舎での開催回数を増やすことなどを検討している。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
議題（４）地域密着型サービス事業者の指定等について	
事務局	資料４に基づき、地域密着型サービス事業者の指定等について説明を行う。
委員	各施設の最大定員は何人か。
事務局	最大定員は１８人である。
議題（５）報告事項等	
事務局	（報告事項１）資料５に基づき、所沢市包括的支援事業の実施に係る基準を定める条例の一部改正について報告を行う。
委員	高齢者福祉計画推進会議が地域包括支援センターの運営状況を勘案して必要であると認めるときは、常勤換算方法によることをできると記載がある。今回は、改正があった旨の報告であって、今後、必要に応じて議題で諮るということで良いか。
事務局	そのとおりである。
委員	現状、法定３職種の配置状況が「×」となっているところが２つあるが、こういったところを常勤換算方法で対応するということか。
事務局	欠員が生じたからといって、すぐに常勤換算方法で対応とはならないが、地域の特性や法人の状況に応じて対応できるように国において法律の改正が行われたことを踏まえ、当市の条例も改正したところである。欠員状況が続くのは望ましくないが、正職員を揃えるということの必要な担保として重要になるため、適宜、会議で諮る予定である。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>複数の地域包括支援センターを運営している法人が2法人あるが、こうした法人において常勤換算方法を活用することになるのか。</p>
事務局	<p>本件の改正点は2点ある。</p> <p>1点目は、法定3職種を常勤で配置しなければならなかったところを常勤換算方法によることができること。</p> <p>2点目は、複数の圏域を一つの圏域として、配置すべき人数が充足していれば、法定3職種の配置条件を満たしていると考えることができるということ。どちらの運用をするかは、適宜、会議に諮る予定である。</p>
事務局	<p>（報告事項2）前回の会議で委員より質問のあった市内ケアマネジャーの人数について報告を行う。</p>
委員	<p>15年後に団塊ジュニア世代が65歳以上となり、人口の3割が65歳以上になるとされている。高齢者施設について調べたところ、所沢市における施設の入所待ちの状況が気になったため、教えてほしい。また、入所待ちの方がいる場合、施設が足りていないのか等の原因も教えてほしい。</p>
事務局	<p>特別養護老人ホームの入所待ち人数の詳細なデータは、今は持ち合わせていないが、市民や関係者からは、入所待ちの方がいらっしゃることはお聞きしているため、少なからず施設への入所をお待ちになっている方はおられると認識している。</p>
委員	<p>それは、施設が足りていないということか。</p>
事務局	<p>施設を利用されたい方の人数に応じて、その分の施設を整備するというところは難しいところ、新規に施設を整備するにあたっては、当施設の維持管理や働き手の確保等の状況を踏まえて慎重に検討する必要がある。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	民間施設に関する状況は、把握されているか。
事務局	今お伝えした内容は、民間施設に関する内容である。
委員	近々、建設予定の施設があれば教えていただきたい。
事務局	<p>特別養護老人ホームについては、第9期計画において、当市で130人分の整備を予定しており、具体的な開設日は未定だが、西狭山ヶ丘に1施設100人分が整備予定となっている。また、下富において、既存の特別養護老人ホームである真和の森が20人分の増床となっている。</p>
委員	<p>委員の半数程度は介護事業に関わっている方のため、内容は理解できるかと思うが、公募委員の方などが初めてこうした進捗評価表を見る中で、意見をいうのは難しいのではないか。</p> <p>また、設定された目標値の正当性について、例えば、救急情報キットについて言えば、どんどん普及するにつれて新たに配布する方が少なくなっていくことが予想されるため、最初の伸び幅の設定が大きすぎたのではないかと感じた。そのため、年度の途中で補正予算というようなかたちで、目標値を設定し直す等の対応が必要なのではないか。</p> <p>そして、介護実態調査についても、調査において得られたデータがどのくらい計画に反映されるのかという点が気になる。</p> <p>また、データの集計等に費用もかかっているかと思う。その費用対効果について、介護保険の予算で実施しているのであれば、先ほどの話で言えば、特養は整備される予定があるが、要介護1～2の方が入れる施設が少なく困っていること等がしっかりと拾われているのか、拾われたものをどのように具体化していくのか。こうしたことについて、本会議でご説明いただけたらと思っていたところ、資料を見ながら説明を受けてどう思うかと聞かれても、意見を出すのはなかなか難しいのではないか。</p> <p>また、地域包括支援センターの介護予防支援の実施状況についても、各地域包括支援センターから委託先へ1件どのくらいで委</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>託しているというのが、分かったほうがいいのではないか。</p> <p>本計画を全て見れば、今回報告いただいた数値が反映されていることが分かると思うが、そのつながりが介護事業に関わっていない方には、見えていないのではないかと感じる。</p> <p>委員の皆さんは市の計画に興味があって委員として参加されていると思うが、意見を言わずに帰られる方もいらっしゃる。もっと字を大きくしてほしいであったり、資料を分かりやすくしてほしいなどとお思いの方もいらっしゃると思うので、もっと意見を求めてはどうか。</p> <p>まず、目標値が適正だったのかという御質問について、目標設定については、今後、第10期計画を作成していく中で、本会議で議論させていただくことになる。第9期計画の目標値についても、第8期計画の計画期間がコロナ禍だったこともあり、今までどおり順調に各数値が伸びていくと考えるのは難しいという中で、コロナ禍を踏まえた目標値の設定が必要と考え、再設定した目標もある。</p> <p>次に、年度の途中で目標値と実績値が合わなくなってきた場合どうするのかについて、5～10年に1回作成する計画であれば、中間見直しのようなものを実施するかと思うが、本計画は3年に1回という短い周期で作成しなければいけないため、計画期間途中で目標値の見直し等は予定していない。目標値から大幅に乖離した実績になった場合は、その理由について本会議で説明させていただく。</p> <p>ただ、施策の方向性の関係で、どうしても目標を変更しなければならない状況が生じる可能性もある。例えば、シニア・アカデミーについて、以前は、高齢者大学という名称で実施しており、高齢者の学びや生きがいに重きを置いて施策を実施していたが、地域の担い手となる高齢者の方の養成の必要性が高まったため、第8期の計画期間途中で施策内容を変更し、それに伴い目標についても本会議に諮って変更したことがある。第9期計画についても、特別な理由で目標の変更が必要になった際は、本会議で諮らせていただく。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>また、御参加いただいている委員の方に、多くの意見をいただけるように、もう少し配慮や検討をしたほうがいいのかという御意見について、お忙しい中、全ての資料に目を通すのは難しいことは承知している。そこで、会議直前ではなく、できる限り早い段階で資料をお送りできるよう努めている。また、今回は、文字が小さい資料もあったが、御意見を踏まえて、今後も見やすい資料作りを心掛けていく。</p> <p>最後に、調査をしっかりと活かしているのかという質問について、高齢者福祉・介護実態調査は一般会計予算にて実施しているものであるが、市民の方々の税金を使って実施しているものであるため、費用に見合った調査の活用を努めたいと考えている。そのためにも調査の内容をしっかりと検討し、新しい施策や変更の必要がある施策などについて、調査の結果も活かして検討していきたいと考えている。前回の調査内容の検討に際しては、例えば、特別養護老人ホームの整備に関して、入所する場合に個室と多床室のどちらを希望するかを高齢者の方に回答いただく設問が元々あったが、委員の皆様から、その方を近くで見ているケアマネジャーにも聞いた方が良くはないかと御意見をいただき、それをケアマネジャーの調査の設問に反映するなどしており、このようなことをしっかりと積み重ねて取り組んでまいりたい。</p>
委員	<p>議題4について、1つ目の施設の運営法人である両馬株式会社は、今年の3月に設立された法人であり、2つ目の施設の運営法人である株式会社KISは、普段は建築業をしている法人のようだが、指定した理由をお聞きしたい。</p>
事務局	<p>事業所の指定は、介護保険法や基準省令に基づき、基準を満たしていれば運営実績の有無に関わらず指定するものだが、二つの法人の実績としては、両馬株式会社については、当該法人としては過去に実績はないものの、「だんらんの家 小手指」という事業所が、同圏域で既に運営しており、その事業所を運営している日本介護事業株式会社が、ノウハウ等を両馬株式会社に提供をしながら運営をするという形態をとっている。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p data-bbox="411 353 1347 584">株式会社 KIS については、建築業をしているというのは、同名の別会社であると思われる。こちらについても、過去に事業所の運営実績がある法人が名称を変えて新規の法人として運営するものである。よって、法人としては運営の実績はないが、運営の経験がある職員が運営する法人である。</p> <p data-bbox="443 701 507 734">閉会</p>